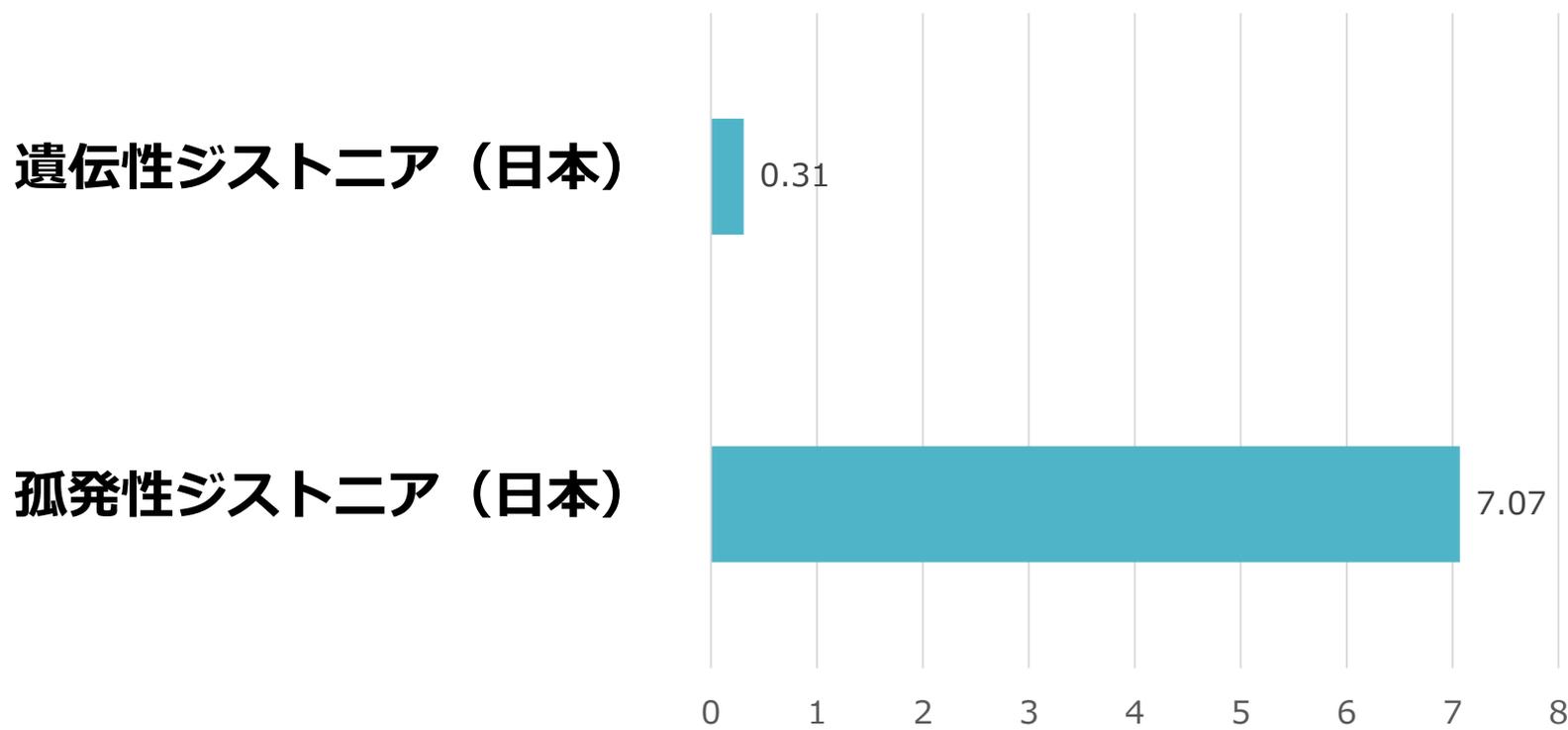
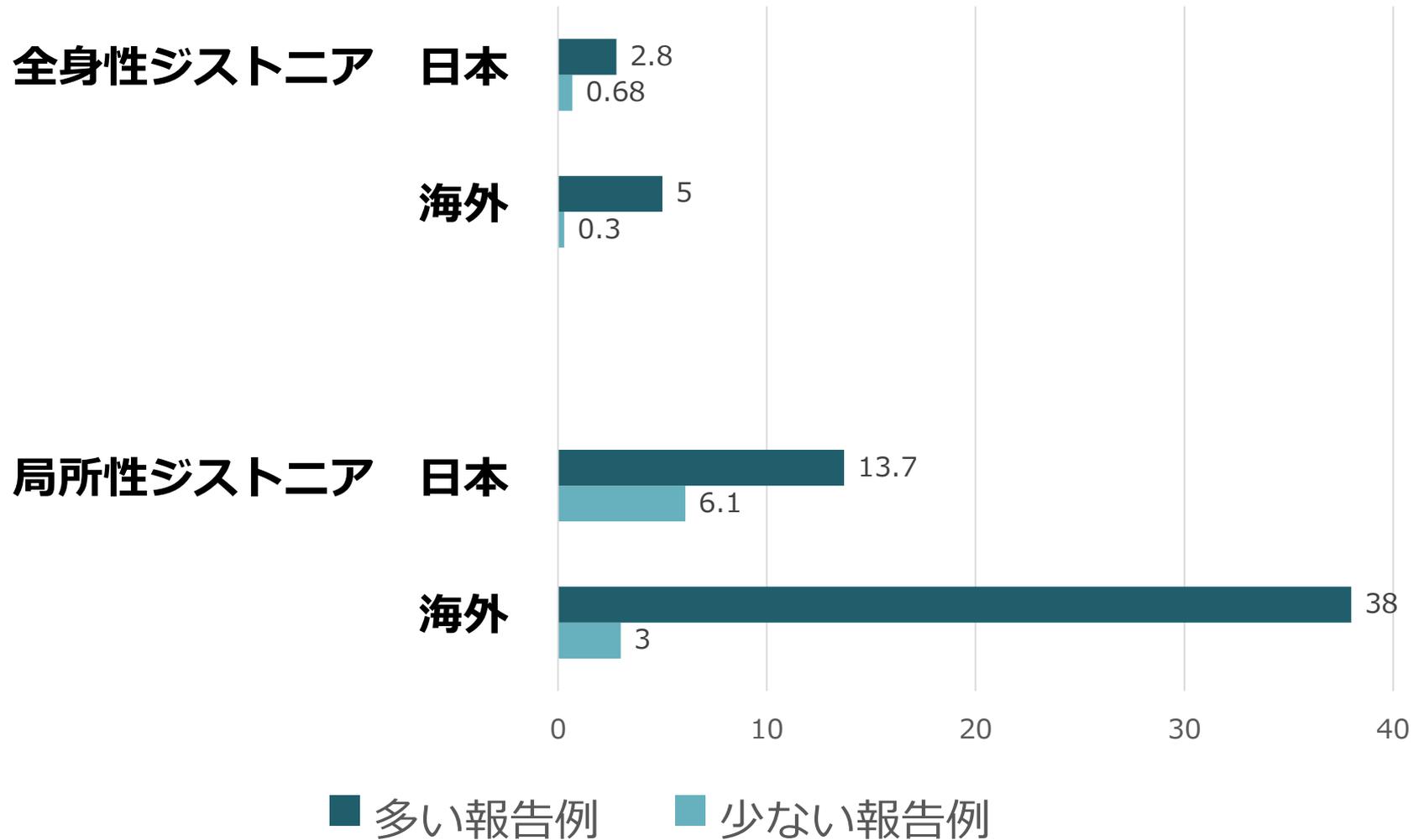


ジストニアの病型と 有病率（10万人あたり）



ジストニアの病型と有病率（10万人あたり）



主な局所性ジストニア

眼瞼（がんけん）けいれん

痙性斜頸（けいせいしゃけい）

音楽家のジストニア

スポーツにおけるジストニア（イップス）

薬剤性ジストニア

眼瞼 (がんけん) けいれん

- 目が開けにくくなったり、瞬きが増えたりします。
- 50歳代での発症が多いですが、より若年，高齢でも発症します。
- 女性に多いとされています（男：女比 約1:2~3）
- 実際には、他の理由（→）で受診されることもあります。
- 「ドライアイ」の症状と似ているので、ドライアイの治療を受けられていることもあります。
- 目の周りの特定の部位に触れると、目が開けられるようになることがあります。（感覚トリック）

「目が開けにくい」

「まばたきが増えた」

「まぶたがびくびくする」

「まぶしい」

「まぶたが下がってくる」

「目に違和感がある」

「目が痛い」

「目が乾く」

「涙が出る」

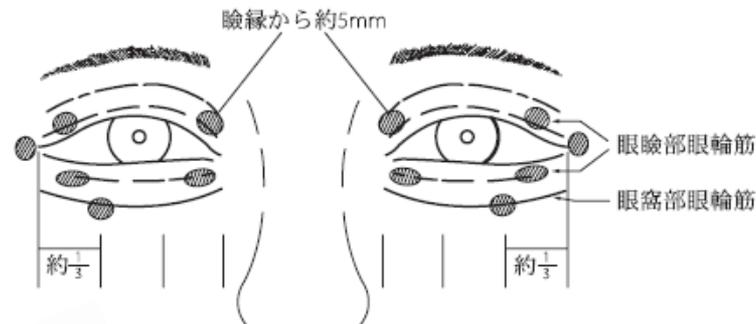


眼瞼けいれんの治療

- ボツリヌス治療：目の周りの筋肉に注射をします

- お薬

- 装具など：クラッチ付き眼鏡、遮光眼鏡、ヘアバンド、バンダナ、片眼帯
- 眼輪筋切除術などの眼科の手術
- 脳深部刺激療法



グラクソ・スミスクライン株式会社HPより



<https://www.opt-rainbow.com/clachglass.html>



痙性斜頸（けいせいししゃけい）

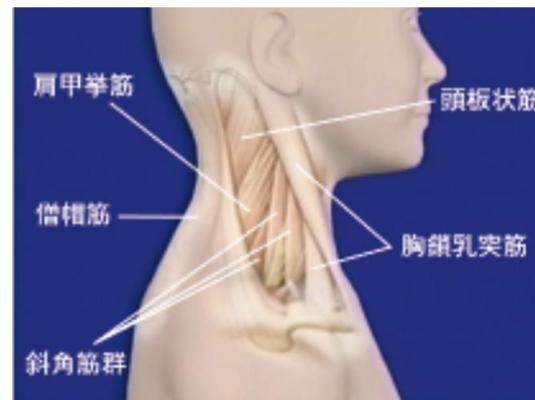
- 首の局所性ジストニアです。
- 頸部の筋が一定のパターンで不随意に収縮することで、異常な頭位となります。
- 緩徐に発症し，中年期に多いとされます。
- 精神的なストレスや一定の姿勢・動作（歩行など）で症状が悪化することがあります。
- 薬剤性，心因性，筋肉や目に原因がある斜頸との鑑別が必要になります。



痙性斜頸の治療

- ボツリヌス治療：首の筋肉に注射をします

- お薬
- リハビリテーション脳深部刺激療法
- 脳深部刺激



動作特異性ジストニア



- 局所性ジストニアの一種です。
- 気づかないうちに、特に痛みなどもなく、特定の、十分にやり込んできた動作を行うときに、器用にできなくなります。
- はじめのうちは特定の動作だけであったのが、次第に別の動作でも誘発されたり、体の他の部位にも広がっていくこともあります。
- 感覚トリックが他のジストニアと同じように有効な例があります。
- 長期間にわたり一定の動きを反復して行うことが誘因となるのが特徴で、職業としてそのような動作を行うことが多いため、その場合は、**職業性ジストニア**とも呼ばれます。

書痙（しよけい）

- 字を書くときに、手にみられるジストニアです。
- 勝手に手や腕の筋肉に力が入るため、円滑に字が書けなくなってしまうものです。
- ジストニアの特徴である定型性（比較的同じパターンの動き）、感覚トリックなども認めます。
- 書字の際にだけ症状がみられる場合もありますが、キーボードの操作など、書字以外でも症状がみられる場合もあります。



書痙の治療

- リハビリテーション
- お薬
- 局所麻酔薬の注射（MAB療法）

リハビリの例

- できるだけ書字を減らす
- ペンの太さや形状、重さを変える
- ペンホルダーや指装具を利用する

音楽家のジストニア

- 楽器演奏者の上肢に出現するジストニアです。
- 楽器を演奏するときに、勝手に手指や腕が動くものです。
- ピアノ、ヴァイオリン、ギターなど手で演奏する楽器だけでなく、フルート、クラリネットやホルンなどの管楽器でも報告されています。
- 管楽器では、口唇や顔面、顎に出現することがあります（アンブシュア ジストニア）。
- 歌手で通常の会話は支障ないのにも関わらず、歌唱の際に声帯をコントロールする筋肉にジストニアが現れる例もあります（けいれん性発声障害という喉頭ジストニアの一種）。



治療

- ボツリヌス治療（けいれん性発声障害）
- リハビリテーション
- お薬
- 局所麻酔薬の注射（MAB療法）
- 外科手術（視床Vo核破壊術）

音楽家のジストニアの発症率は、1～2%と報告されています

リハビリの例

- 練習の休止
- 感覚運動再教育
- 装具



• 「ジストニアの経験あり」の6名の症状

- 低音が吹けない

(金管楽器, 19歳女性, 13歳から開始し, 18歳で自覚)

- 口角がひきつる

(金管楽器, 19歳女性, 12歳から開始)

- 右小指が伸びる

(ピアノ, 20歳男性, 3歳から開始し, 10歳で自覚)

- 左中指～小指が曲がる

(木管楽器, 20歳女性, 12歳から開始し, 19歳で自覚)

- 中指が曲がってしまう

(ピアノ, 21歳女性, 3歳から開始し, 19歳で自覚)

- 唇がふるえる

(金管楽器, 21歳女性, 12歳から開始し, 15歳で自覚)

 医療機関を受診した例はなかった

イップスとは？

- 習熟した精密な運動がうまくできなくなる，スポーツで生じる運動障害です。
- 試合など，ストレスのかかる状況で出現しやすい傾向があります。
- ゴルフ，特にパットでの報告がおおいですが、アーチェリー，ダーツ，卓球など，さまざまなスポーツで報告があります。
- 日本では，野球で、ピッチャーやキャッチャーが特定の条件でうまくボールを投げることができなくなるケースの報告が多いです。

イップスの原因

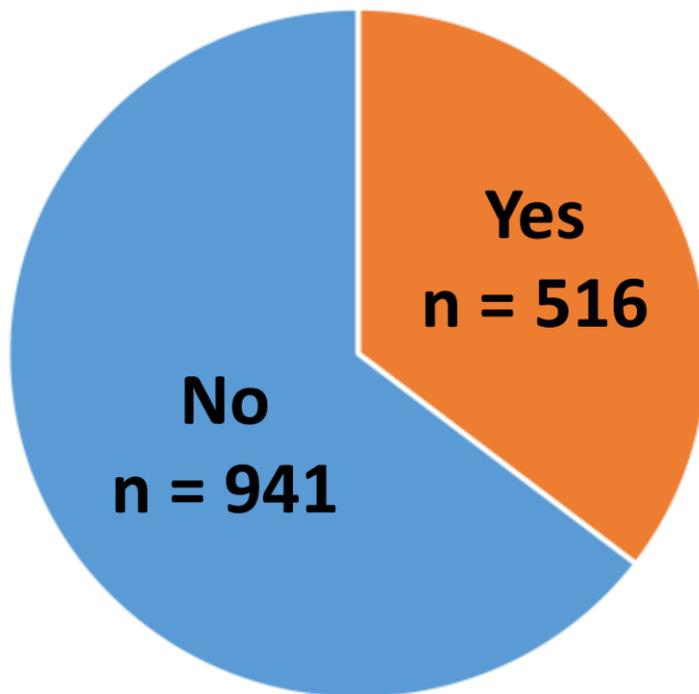
- イップスの原因はまだほとんど解明されていませんが、不安などの精神的な要因が重要と考える立場もあれば、書痙や音楽家のジストニアと同様の局所性ジストニアの一種ととらえる立場もあります。
- おそらく、実際には、両者の要素を併せ持つ例が多いと考えられます。

I 型

2型



イップスを経験したことがありますか？



- ゴルフのイップスの頻度は、海外の報告では、22-52%でした。私たちの調査結果も同じものでした。
- これらは、同じ職業性ジストニアでも、音楽家のジストニア（約1~2%）よりも、はるかに頻度が高いです。

38.6%

→約3人に1人が経験



まとめ

- ジストニアは、いろいろな原因で発症します。
- 症状はさまざまであり、ジストニアと気づかれていないことも多いです。
- 注射、お薬、リハビリテーションなど、いろいろな治療法があります。症状が進まないうちに適切な治療を開始することが大事ですので、「ジストニアかもしれない」、と思ったら、専門の医師（神経内科医）を受診してください。